

議員視察報告書

赤穂市議会
議長 土遠 孝昌 様

議員氏名	<u>釣 昭彦</u>
	<u>安田 哲</u>
	<u>深町 直也</u>
	<u>前田 尚志</u>
	<u>家入 時治</u>
	<u>土遠 孝昌</u>

下記のとおり、行政視察を実施したので報告します。

記

1. 実施日 令和6年7月9日（火）～令和6年7月11日（木）（3日間）
2. 視察先及び主な調査項目（詳細については別紙のとおり）
 - (1) 東京都練馬区（令和6年7月9日（火））
 - ① 小学校における校務DXの取組みについて
 - ・クラウドの導入による校務改革について
 - ・クラウド型校内研修の取組みについて
 - ・取組みの校内推進体制と教育委員会との連携について
 - ② 議会運営全般について
 - (2) 神奈川県大和市 大和市立図書館（令和6年7月10日（水））
文化芸術振興における公共施設（シリウス）の管理運営について
 - ・図書館の管理運営（指定管理）について
 - ・文化ホール等の管理運営について
 - (3) 東京都足立区（令和6年7月11日（木））
 - ① 足立区デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画の推進について
 - ・オンライン申請システムと窓口DXの取組みについて
 - ・DX人材の育成について
 - ・RPA/AIの利用促進について
 - ② 議会運営全般について

視察地先：東京都練馬区

日 時：令和6年7月9日（火）13時15分～15時00分

場 所：練馬区議会会議室、練馬区豊玉小学校

説明者：教育委員会事務局 教育振興部教育施策課長 竹岡 博幸 氏

豊玉小学校 校長 氣田 眞由美 氏

豊玉小学校 主幹教諭 池田 悠基 氏

<視察目的>

GIGAスクール構想の下、生徒1人1台のタブレット配布やWi-Fi環境の整備、デジタル教科書・ドリルの導入など教育現場におけるICTの活用は着実に進んでいる。一方で、教員が行う教務・校務の改革におけるICTの活用（校務デジタルトランスフォーメーション）については、教育委員会や学校における取組状況の差が課題となっている。そこで、校務DXを積極的に進めている練馬区教育委員会及び学校現場の取組について視察を行った。

<説明、取組内容>

- ・学校現場におけるICTの活用について、練馬区教育委員会では「ICTを活用した教育内容の充実および校務改善」3か年計画（令和4年度～6年度）に基づき取り組んでいる。令和6年度においては、各校で「ICT活用推進計画」を策定・実施。教育委員会が毎月の進捗状況を確認し可視化している。
- ・現場におけるICTの「活用能力の向上」については、各校におけるICT活用推進リーダーの選任、研修を実施。また業務委託によりICT支援員が各校を定期的に巡回したり、教育委員会が先進事例等の取組を各校に周知することで学校DXの取組を支援している。
- ・豊玉小学校では、Google Workspace for Educationの活用による校務デジタル化を推進。行事予定や授業計画の週案、保護者面談の日程調整等が各教員のパソコンや職員室に設置されたデジタルサイネージで確認できるなどリアルタイムで職員間の情報共有が図られている。
- ・週の時間割や行事、持ち物が生徒のタブレットで共有され、保護者との連絡においてもタブレット上で行われているなど、生徒、保護者との情報共有においてもICTが活用されている。

<所 感>

- ・デジタル化を進める上での学校側へのフォロー体制がしっかりしていると感じ、赤穂市でもデジタル化を進めるのであれば、フォロー体制の構築が重要となると思う。学校のデジタル化の進行状況をよく理解できる視察を行うことができた。
- ・各学校をサポートするためICT支援員30名を教育委員会内に常駐させ、週1回は定例に、また随時の対応もされている。説明を受けた視察先の小学校の担当教員の方は大変熱心であり、いかに人材が大事であるか感じた。
- ・人口74万5千人、教員数は2,500人と、規模が赤穂市とは比較にならない。総合計画、教育振興基本計画の下に、各校には実践的なICT活用推進計画がある。教育委員会は支援員30人を人件費2億円で抱えて各校の校務DXを支援し、

D X推進ができるのも人口・予算規模の違いはあるが、支援体制について参考になる。

- ・区立豊玉小学校は、学年3～4学級である。校長、副校長、主幹教諭体制で、主幹教諭が校務D Xのリーダーとなり、システムを駆使して校務情報をデジタルサイネージで教員や児童も共有できるように仕上がっていた。
- ・教員がタブレットを家に持ち帰ることはほとんどないそうである。教員がタブレット・パソコンを使うので、職員室の机上は整理整頓ができていた。
- ・豊玉小学校における校務D Xの取組みについては、全職員が情報共有しつつも、セキュリティ対策上、情報に応じた管理者制限が図られていた。
- ・1年生から6年生までの行事予定の共有については、週案入力スペースや児童への連絡スペースなどを設けており、全職員で情報を共有している。
- ・面談の日程調整においては、保護者からの希望日時の返信を受け、自動集計・自動振り分けが行われ調整業務の大幅な軽減が図られており、働き方改革にもつながっていた。
- ・小学校でのD X化はタブレット端末での勉強が一般的と考えていたが、校務D Xの取組みについては驚かされた。積極的に推進する教員がいればこそ実現できるものであると感じた。
- ・教員用のパソコンが1台ずつ配置され、職員室の壁面には大型モニターが2台設置され、教員間の状況共有が容易になされていた。また、児童用タブレットを介して、生徒と先生間の情報共有も可能となるなど練馬区のI C T環境には大いに感銘を受けた。

視察地先：神奈川県大和市 大和市立図書館

日 時：令和6年7月10日（水）13時30分～15時30分

場 所：大和市文化創造拠点シリウス

説明者：指定管理者やまとみらい統括責任者 片山 鑛藏 氏

<視察目的>

「市民の居心地の良い場所づくり」をコンセプトに、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を併せもつ複合施設「シリウス」が2016年に開設され、各施設、指定管理者制度のもと専門的ノウハウを有する民間事業者が利用者ニーズに応じたサービスを提供し、あらゆる世代が集える市民の憩いの場となっている。公共施設における利用者ニーズに即したサービスや管理運営方法について視察を行った。

<説明、取組内容>

- ・ 「シリウス」は、図書館流通センター、サントリーパブリシティサービス、小学館集英社プロダクション、明日香、ボーネルンド、横浜ビルシステムの6社で構成する企業グループ「やまとみらい」が運営。各社が市と指定管理契約を結び、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場、ビルの維持管理を専門的に管理運営。
- ・ 図書館の運営は、休館日の12月31日、1月1日以外、9時から21時まで開館。各階、カテゴリーに分かれた蔵書としつらえとなっており、図書には電子タグが装着され施設内ならどこでも貸出手続を経ずに閲覧が可能となっている。また有料の座席「市民交流ラウンジ」ほか飲料の持込みが可能であるなど利用者がくつろげる空間を提供。年間利用者2千万人。
- ・ 生涯学習センターでは、市民交流スペース「プラット大和」をはじめ、講習室、会議室、調理実習室など様々な世代や属性の方々が集える複合施設となっている。
- ・ 健康相談コーナーの設置や引きこもりの方々が利用しやすいようにブースを設け漫画本を配架するなど福祉施策との連携も進めている。
- ・ 文化ホールの稼働率は94%。大型コンサートでは採算割れとなるが、企業研修や地域文化団体の利用が多くなっている。

<所 感>

- ・ シリウスは非常に大きな施設で、様々な年代の市民の方々に対応しており、もし家の近くにこのような施設があれば、何度も行ってみたい、利用してみたいと感じる人が多い施設であると強く感じた。
- ・ 蓋のついた飲み物であれば持込みも可能にする柔軟な対応が行われており、赤穂市の施設でも取り入れられることはあるのではないかと思った。
- ・ 多世代型の交流施設である複合施設「シリウス」は、全館が図書館というコンセプトで、指定管理者により運営されている。1階から5階には自動貸出機の設置、コーヒーショップの営業など、様々な利用促進策が十分に図られていると感じた。
- ・ 神奈川県大和市、人口約24万人の文化創造拠点シリウスを視察した。6階建ての巨大な建物は市役所かと思ったが、各階図書館、文化ホール、子供向け読書・

遊び場など、読書対象者別に効率よくゆったりした空間になっており、多くの利用者が心地よさそうに読書に集中していた。規模は参考にならないが、デジタル化で効率的、飲食も可能など参考になった。

- 1階フロアの一角にはスターバックスが出店しており、4階と6階のテラスにおいても飲食ができるようになっている。市内外の方が気軽に利用できる憩いの場所となっており、今後は本市においても図書館のテラスについては、飲食ができるようにする必要性を強く感じた。

視察地先：東京都足立区

日 時：令和6年7月11日（木）10時00分～12時00分

場 所：練馬区議会第3委員会室

説明者：政策経営部情報ICT戦略推進担当 課長 湯本 要 氏
政策経営部情報ICT戦略推進担当課 係長 佐藤 大介 氏
政策経営部情報ICT戦略推進担当課 係長 長谷部 泰人 氏
政策経営部情報ICT戦略推進担当課 係長 茶谷 成昭 氏

<視察目的>

「書かない・行かない」サービスを足立区のセールスポイントとして、「足立区デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画」の下、ICTの活用による住民サービスの向上及び業務の効率化や政策立案能力の向上を図るなど職員の働き方改革を積極的に推進している足立区の取組みについて視察を行った。

<説明、取組み内容>

- ・令和4年度から6年度までの3か年計画を策定し、8つの重点項目に基づきDXを推進。そのうちICT戦略推進担当課（課長1名、係長4名、係員2名）では人材育成、RPA・AIの利用促進、オンライン申請システムと窓口DX、データの利活用とEBPM推進の4項目を担当。
- ・令和3年度より若手職員を対象としたEBPM研修を実施。年間300名程度の職員が受講し、データの利活用に基づく政策立案手法を学ぶなど職員の政策立案能力の向上を図っている。令和6年度からは全庁的なDX推進の意識向上を図るため、一般職員ほか管理職を対象としたDX研修を実施。
- ・保育施設入所申請データの入力業務など、RPAによる自動入力など業務を効率化。令和5年度の削減時間推計は約5,300時間。
- ・オンライン申請システムの構築及びRPAの導入については、業務担当課とICT戦略推進担当課が連携しながら進め、オンライン申請の手続数については、令和3年度の89手続から令和5年度の469手続と飛躍的に増加。保育施設入所申請においては75%がオンライン申請となっている。

<所 感>

- ・保育所の入所申請でのデジタル化でこれまでより余裕ができるようになったという例を聞くことができた。私は、以前保育所の事務に勤めていたことがあり、かなりの手間と時間を要することを知っていたので大いに参考となる事例であると感じた。
- ・いずれの視察地でも、まだまだ紙の使用をしなければならない部分があるという状況も分かり、まだまだ道半ばであり今後どのように進むかをみななければならないと思った。
- ・書かない窓口として民間会社のRPAを利用し、若い人の利用が多い保育施設入所申請から始められた。オンライン申請は、さらに重要性を増していくと思われるが、すべてがオンラインで済むよう、より一層の技術の進歩が必要と感じた。

- 人口約69万5千人の庁舎内入口3か所に案内所があり、通路にも案内者が、各窓口入口には担当者が立っていた。モニター表示はあまり見当たらなかった。
- 足立区のDX推進の取組みにおける令和5年度実績には、EBPM研修受講者247人、RPAの職員によるシナリオ本数は30本、削減時間は推計5,328時間、作成したオンラインシステムでの申請受付件数が175,338件など、積極的なDX推進が成果にも表れている。
- 国の方針を追従するだけでなく、ICT戦略推進担当課7人と外部の専門家2人を加え、所管の職員との細かな業務連携により、足立区独自のDXを推進している。
- マイナンバーカードを使った住民サービスの提供、AIチャットボットによる情報提供など、区民の利便性を向上させるための様々な取組みが進められていた。
- 本市においても、今後はDX推進に取り組み、市民サービスの向上、また職員の業務の効率化を図り、働き方改革にも努めていく必要があると感じた。
- 保育所入園手続の200項目がRPAロボットで迅速に処理可能となるなど利用者の利便性向上と業務の効率化に強く感銘を受けた。